

第 7 章

西南地域の対外経済関係

箱崎 大

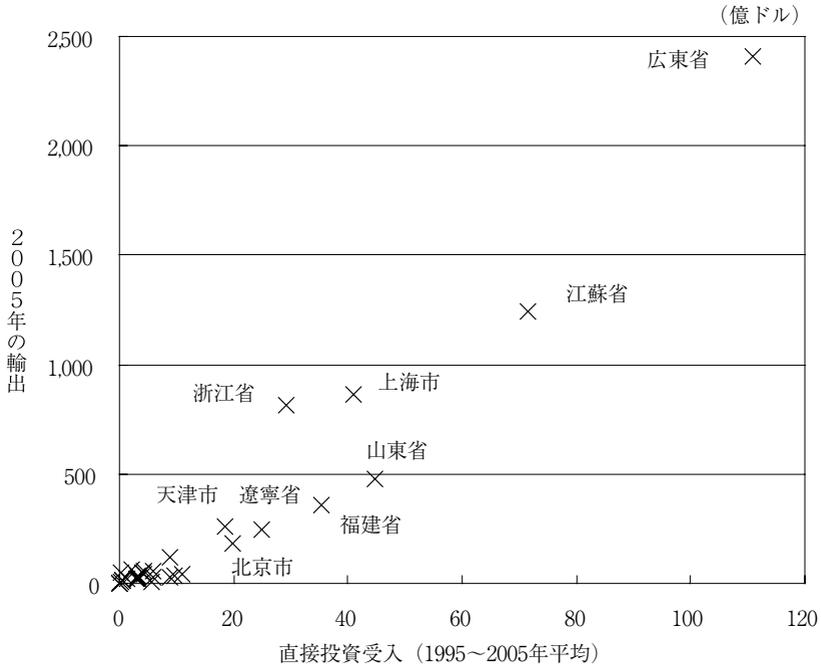
はじめに

中国で発展しているエリアといえば沿海部が思い浮かぶ。沿海部には、改革開放後に外国企業から資本や技術、経営ノウハウを導入し飛躍的に発展した都市が多く、各省・自治区・市の輸出額は、直接投資との相関が高い（図1）。

深圳の発展は改革開放の30年で成し遂げられた。中国随一の商業都市である上海も、戦前こそ国際都市として栄えたが、戦後外国資本が香港などに撤収してかつての輝きを失い、次第に改革開放のメッカである広東省の後塵を拝するようになった。復活のきっかけは1990年代の浦東開発を通じた外資導入である。いずれも都市の歴史としては長い時間ではない。

西南地域も、同じように外資が導入できていれば、大きく変貌していたはずである。しかしこの地は内陸にあり外資の注目を集めにくい。ましてや現在のように、市場経済への適応と産業集積の進んだ都市が沿海部に増えてしまうと、内陸部は一層注目を集めにくくなる。もっとも西南地域の貿易や投資は、それを取り巻く情勢が変化しつつある。たとえば、中国は東南アジア諸国連合（Association of Southeast Asian Nations：ASEAN）との友好関係構築に注力しており、ASEANとの自由貿易協定（Free Trade Agreement：FTA）締結も決めている。西南地域はASEANとの

図1 直接投資と輸出の相関



(注) 直接投資受入は利用できるデータの長さが自治体ごとに異なるため、年平均値を用いた。
 (出所) 『中国統計年鑑』、『中国商務年鑑』。

国境地帯にあり、中国の対 ASEAN 貿易にとって重要な位置にある。また、地域間格差の是正が現在の五カ年計画の主題となっていることは遅れた西南地域の経済振興には追い風といえる。さらに、改革開放のフロントランナーであった華南が華東の追い上げに遭い、西南地域を自らの後背地とした地域経済圏構想を主導するようになった。「汎珠江デルタ構想」がそれである。このため貿易投資は、西南地域の経済発展の主役とはなり得ないにしても、脇役として拡大していくことは不思議ではないだろう。

外資の注目を集めることの難しい西南地域の経済が、沿海部と同様に外資導入をてことして離陸する姿は想像し難い。しかし、本章の主張は、沿海部が発展する過程で外資の果たした役割を沿海部の企業が補い西南地域の企業のレベルを引き上げ、ASEAN を中心に貿易額を伸ばしていくこと

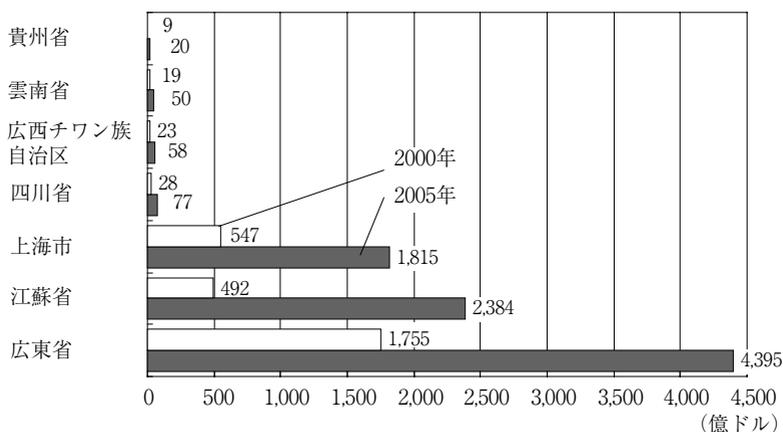
は十分可能な情勢といえるというものである。本章では、西南地域の貿易投資を概観し、対外貿易における有利・不利の側面を検討する。最後に、沿海地域と違う対外経済発展の展望を行う。

第1節 西南地域の貿易投資

1. 西南地域の貿易の現状

西南地域はそもそも貿易が活発な地域ではない。貿易額をみると、2005年の中国の貿易総額は1兆4225億ドルであり、省・市・自治区別の貿易額第1位である広東省は4395億ドルで、全体の30.9%を占めている。これに対し西南地域は、四川省が77億ドル、広西チワン族自治区が58億ドルなど、いずれもシェア1%にも満たない(図2)。2000年と2005年を対比してみても、中国の貿易額全体が3倍になったのに対し、広西、雲南、貴州、四川の貿易額増加はそれぞれ2.5倍、2.6倍、2.3倍、2.8倍にとどまり、中国の貿易における西南地域の地位は低下を続けているといえる。

図2 省・自治区・市別の貿易額(2000年および2005年)



(出所) 『中国統計年鑑』各年版。

2. 西南地域への直接投資の現状

中国への直接投資は、全体としては2000年代に入り第3次ブームと呼ばれる盛り上がりを見せた。その理由とされるのは世界貿易機関（World Trade Organization：WTO）加盟である。もっとも中国のWTO加盟は2001年のことで、対中投資額が増加に転じた時期はもう少し早い。当時を振り返ると、一連の交渉のなかで米国との交渉が最大のヤマ場であり、その後に控えていた欧州との交渉は、加盟のハードルとしてそれほど話題にはなっていなかった。対米交渉は、1999年の春にいったんは決裂したものの、11月に交渉日程の土壇場で妥結した。このとき中国のWTO加盟は一気に現実味を帯び、中国の市場開放に対する海外の期待感も高まった。

第3次ブームの背景には、中国が生産拠点としてのみならず、市場としても注目されるようになったことがあると考えるが、その点で外資が注目されたのも、結局は豊かになった華東や華南などの沿海部であった。WTO加盟の恩恵は沿海部止まりであり、西南地域への投資に目立った変化はなかった。

表1をみると、西南地域への投資（実行ベース）が上向いたのは2004年以降である。西南地域への投資金額はまだまだ小さいが、それでも2003年と2005年とを比べると倍になっている。2004年は西南地域の貿易投資にとって2つの大きな変化があった。1点目は、中国ASEAN博覧

表1 国と地方の投資受入額の推移

(億ドル)

	国				
		広西	貴州	雲南	四川
2000	403.33	5.25	0.25	1.28	4.37
2001	463.67	3.84	0.28	0.65	5.82
2002	524.71	4.17	0.38	1.12	5.56
2003	535.05	4.19	0.45	0.84	4.12
2004	606.30	5.97	0.65	1.42	7.38
2005	603.25	8.74	1.08	1.89	9.07

(出所) 『中国統計年鑑』、『中国統計摘要』、泛珠三角合作信息网『9省区04年05年进出口及利用外資統計』。

会の開催である。この博覧会は、温家宝首相が前年10月の中国 ASEAN 首脳会議で提唱したもので、後に毎年南寧で開催することが決まった。この決定により、南寧はいわば中国 ASEAN 貿易振興のシンボルとなった。2点目は、汎珠江デルタ地域協力フォーラムが開催され、香港、マカオと中国南部の9省が「パートナーシップを通じての繁栄」⁽¹⁾に向けて第一歩を踏み出した。

第2節 西南地域の有利と不利

1. 西南地域の貿易品目

現状、西南地域の輸出は中国において微々たる存在だが、どのような品目を中心であるのかを簡単にみておこう。統計的には、税関別のデータと省・市・自治区別のデータがあり、品目のデータが詳細なのは税関のデータだが、前者は後者に比べ極端に金額が少ないケースが散見されるため、省・市・自治区のデータをみることにする(表2)。

広西チワン族自治区の場合、第1位の「服および関連品」を除けばおおむねこの地の資源に関連したものと見える。第2位の「家庭用陶磁器」は、豊富なカオリンが原料と考えられるし、第4位の松脂も同自治区が全国の39%(2005年)を生産する。雲南省の場合、輸出の上位品目をみると、広西チワン族自治区以上に素原材料で占められているとの印象を受ける。貴州省の場合、細かい品目別の輸出金額は不明だが、第1位の「化学工業および関連工業製品」、第3位の「金属およびその製品」、第4位の「鉱産物」はおおむね地元の資源に関連した輸出品目といえそうだ。第5位の「食品、飲料、煙草およびその代用品」については、葉煙草の生産量の多さや特産品の「茅苔酒」が連想される。第2位が「機械類」である点はやや意外だが、三線建設の過程でこの地に育成された軍需関連企業の工業技術を基礎としているとの指摘があった⁽²⁾。四川省は地下資源でいえば天然ガスの埋蔵量が大きい。農業も、灌漑事業の成功により蜀の時代から「天賦

表2 西南地域の輸出上位品目

広西チワン族自治区 (2004年)		四川省 (2004年)		(万ドル)	
1	服および関連品	19,814	1	原子炉・電気機械・AV機器	111,368
2	家庭用陶磁器	9,549	2	紡績原料・製品	73,253
3	未鍛造の錫、錫合金	7,777	3	非鉄金属・およびその製品	66,514
4	松脂およびその酸化物	6,028	4	化学工業およびその関連品	44,986
5	果物、ナッツ	5,536	5	生き物および関連品	18,698
6	花火、爆竹	4,872	6	生皮、皮革、毛皮およびその製品	12,263
7	亜鉛の酸化物、過酸化物	4,299	7	食品・飲料・煙草	12,064
8	鋼材 (ロール)	4,072	8	家具・玩具・その他雑品	10,214
9	重晶石	3,484	9	靴・帽子・傘・杖・羽毛製品	9,309
10	野菜	2,883	10	鉱物材料製品、陶器、ガラス製品	8,810

雲南省 (2003年)		貴州省 (2004年)			
1	無機化学元素、酸化物、ハロゲン化物	17,219	1	化学工業および関連工業製品	27,562
2	化学肥料	13,632	2	機械類	19,464
3	錫	11,321	3	金属およびその製品	14,147
4	葉煙草	9,665	4	鉱産物	10,035
5	生鮮・冷凍野菜	8,074	5	食品、飲料、煙草およびその代用品	5,667
6	銀、白金および白金族	6,932			
7	紙巻煙草	6,297			
8	無機酸金属塩、無機過酸塩	4,430			
9	鉛	4,229			
10	アルミニウム	3,938			

(出所) 『広西統計年鑑』[2005], 『貴州統計年鑑』[2005], 『雲南統計年鑑』[2004], 『四川統計年鑑』[2005]。

の国」と呼ばれるほど地味が肥え、現在も生産力が高い。輸出は品目別の第1位は機械類となっているが、以下は素材に近いものが多い。以上のように、西南地域の輸出品は、総じていえば、埋蔵量の多い地下資源や収量の多い農産物と結び付いている。

2. 西南地域の資源

2005年9月に2週間かけて貴陽や昆明で行った、省・自治区の発展改革委員会、地元企業に対するヒアリングで感じたのは、産業の話題となる

と、西南地域は地下資源や生物資源が豊富であるとのコメントが多いということである。輸出額の上位を占めるのも、加工の度合いが高いとはいえない品目が多い。西南地域の地下資源と農産物はどの程度豊富なのか、他の地域や中国の平均との比較で考えてみる。

(1) 地下資源の埋蔵量

中国統計年鑑 2006 年版には、2005 年時点の 16 種類の地下資源埋蔵量が省・市・自治区別にまとめてあるので、これをもとに西南地域の実力を測ってみる（表 3）。

広西チワン族自治区の代表的な鉱物はマンガンである。全国シェアは第 1 位で 34% を占めている。そのほか、陶磁器の原料であるカオリンが全国シェア第 2 位、ボーキサイト、バナジウムが第 3 位である。貴州省はア

表 3 西南地域の地下資源の埋蔵量

	石油 万吨	天然ガス 億立方メートル	石炭 億トン	鉄鋼石 億トン※	マンガン 万吨※	クロム 万吨※	バナジウム 万吨	チタン 万吨※
全国	248,972	28,185	3,326	216	21,540	521	1,324	21,410
広西チワン族自治区	123 0%	9 0%	9 0%	1 0%	7,257 34%	-	153 12%	-
貴州省	-	10 0%	149 4%	1 0%	2,550 12%	-	-	-
雲南省	11 0%	15 0%	74 2%	5 2%	1,204 6%	0 0%	0 0%	-
四川省	289 0%	4,295 15%	49 1%	31 14%	30 0%	-	762 58%	20,808 97%
	銅 万吨	鉛 万吨	亜鉛 万吨	ボーキサイト 万吨※	マグネサイト 万吨※	黄鉄鉱 万吨※	磷 億トン※	カオリン 万吨※
全国	2,856	1,393	4,269	73,058	173,831	190,328	37	60,226
広西チワン族自治区	15 1%	30 2%	193 5%	13,509 18%	-	5,594 3%	-	12,819 21%
貴州省	0 0%	6 0%	13 0%	21,531 29%	-	5,452 3%	7 19%	10 0%
雲南省	259 9%	339 24%	1,496 35%	1,971 3%	-	8,194 4%	9 23%	339 1%
四川省	86 3%	76 5%	175 4%	-	180 0%	40,136 21%	3 9%	56 0%

(注) 単位に※を付したものは鉱石の量。省・自治区は上段が資源量、下段が全国シェア。
(出所) 『中国統計年鑑』[2006]。

ルミニウム原料のボーキサイトの全国シェアが29%で全国第1位である。そのほか、燐鉱石、マンガンのシェアも同3位と上位にある。雲南省は亜鉛、鉛、燐鉱石の全国シェアがそれぞれ35%、24%、8%で全国第1位を占める。そのほか、銅の全国シェアも9%で第2位につけている。四川省はチタンとバナジウムの産地である。シェアはそれぞれ97%、58%で圧倒的な第1位である。黄鉄鉱もシェア21%で第1位である。そのほかには天然ガス、鉄鋼石のシェアが第3位となっている。

(2) 農産物

省・自治区別の生産量の順位を、『中国統計年鑑2006』の一覧表をもとにみることにする。広西チワン族自治区、四川省、貴州省、雲南省の段については、省・自治区別順位が5位以内の品目を網掛けにした。四川省は総じて上位につけ、「天賦の地」の評にたがわぬ土地であることがわかる。広西チワン族自治区は「甘蔗（サトウキビ）」が第1位であり製糖業が盛んである。そのほか、「ジュート・ケナフ」が第3位、「落花生」が第5位に入った。そのほかはおおむね10位台である。貴州省は「芋類」が第4位、そのほかは10位台である。そのほかにも煙草の葉の生産が全国第2位である。雲南省は「甘蔗」が第2位、「麻類」が第3位に入った。そのほかにも煙草の葉の生産が全国第1位、茶葉の生産が全国第3位である。茶の種類としては、六大茶のひとつである黒茶の代表品種、普洱茶が有名である。新茶が喜ばれる他の茶葉と異なりコウジカビによる醗酵が風味の決め手であるため、むしろ年代物の茶葉の方が高値で取引される。また、きのこの産地としても知られ、2004年の輸出額1015万ドルは全国第7位である⁽³⁾。

西南地域は農産物が豊富といわれるが、全国的には河南省、山東省などほかにも農業の盛んな地域はある。また西南地域のなかでも、省別にやや強弱がある。主要農産物の生産量の順位を総合的にみると、四川省は全国的にみても先頭集団、雲南省は第2集団、広西チワン族自治区と貴州省は平均的な水準といえるだろう（表4）。

表4 省・市・自治区の主要農産物の生産量と順位

(各列とも、左：順位、右：万吨)

	食糧				油				麻類				甘蔗	甜菜
	穀類	豆類	芋類	棉花	棉花	油	落花生	油菜	胡椒	芝麻	芝麻	花生		
全国	484022	427760	21577	34685	571.4	3077.1	14342	13652	62.5	1105	83	86638	788.1	
北京	949	29	904	30	24	28	21	17	0.2	30	25	23	25	
天津	1375	26	1331	27	39	31	13	25	0.8	31	13	25	0.8	
河北	25886	5	24529	12	512	4	577	3	1403	20	47	8	1.5	
山西	9780	19	8821	20	367	19	593	10	103	25	213	22	29	
内蒙古	13	16622	14	13421	2	1641	11	1560	17	0.2	9	1222	24	
遼寧	17468	12	16603	14	436	23	419	16	0.3	21	368	10	330	
吉林	9	23812	8	23525	3	1528	16	759	17	0.2	15	544	13	
黑龙江	4	30920	9	23247	1	6800	15	873	14	606	21	48	25	
江苏	28	1054	28	1013	28	32	29	09	17	0.2	28	69	17	
江蘇	5	28346	3	26949	6	824	20	553	7	323	6	2160	27	
浙江	23	8147	22	7653	13	474	18	620	15	22	17	501	8	
安徽	7	26063	7	23858	5	955	13	1240	6	325	4	2707	20	
福建	24	7152	24	5440	23	247	12	1465	24	274	4	793	22	
江西	11	17570	11	16773	22	249	21	546	11	87	12	761	14	
山東	2	39174	2	36501	9	682	5	1941	2	846	2	3639	11	
河南	1	45820	1	42775	8	744	3	2301	3	677	1	4486	1	
湖北	10	21774	10	19682	10	650	10	1562	5	375	3	2939	2	
湖南	6	26786	6	24527	11	567	9	1692	8	198	8	1410	7	
廣東	16	13850	16	11851	24	244	17	1855	11	770	12	317	23	
広東	15	14873	13	13849	17	403	17	621	21	0.1	11	632	5	
海南	26	1530	27	1160	31	22	24	348	27	85	9	551	18	
重慶	17	11482	20	8458	15	422	2	2803	19	427	16	318	12	
四川	3	32111	4	23814	4	1315	1	4982	14	25	5	2323	15	
貴州	18	11521	18	9012	18	378	4	2131	21	0.1	10	849	6	
雲南	14	15149	15	12592	7	772	8	1786	22	362	18	73	13	
西蔵	30	934	30	896	29	32	30	06	29	61	19	57	19	
陝西	19	10430	17	9639	19	371	22	420	13	78	18	454	12	
甘肃	22	8389	23	6654	16	417	6	1899	9	11.1	16	503	17	
青島	31	933	31	491	25	118	25	325	23	319	28	02	11	
宁夏	25	2908	25	2963	26	60	26	275	26	122	26	06	16	
新疆	21	8766	21	8430	21	254	27	82	1	187.4	20	389	2	

(出所)『中国統計年鑑』[2006]。

(3) 西南地域の資源の評価

以上みてきたように西南地域は、域内総生産（Gross Domestic Product：GDP）や貿易額の国内順位は下位であるが、農産物や地下資源の埋蔵量でみると中位、場合によっては上位にランクされるものもある。現状の輸出をみても、総額は少ないながら素材、原材料が上位にある。

しかし、生産力が大きいから輸出もできる、ということにはならない。広西チワン族自治区の砂糖はその一例といえるだろう。同自治区は、甘蔗の生産量が全国第1位であり砂糖の生産量も全国の5割を超えているが、輸出は盛んではない。同自治区でのヒアリングによれば、砂糖は現地の零細な農家からサトウキビを集めて製造するため生産効率が低く、世界的な砂糖の産地と比べると競争力もなく、国内販売用とのことであった。そこで、各省の農業の競争力を比較するため単位面積当たりの農産物の収量を全国平均と比較してみたところ、四川省以外はあまり成績がよいとはいえなかった。データは中国統計年鑑2006年版にある主要農産品の単位当たり生産量である。1ヘクタール当たり収穫量を全国（平均）と各省・自治区で比べた場合、年鑑が取り上げた9種の作物のうち、四川省は4種類が全国（平均）を上回ったが、広西チワン族自治区、貴州省、雲南省はわずかにひとつにとどまった（表5）。

表5 耕地面積当たりの収穫量

	(kg / ha)								
	穀類	綿花	落花生	油菜	胡麻	ジュート・ケナフ	甘蔗	甜菜	煙草の葉
全国	5,225	1,129	3,076	1,793	1,054	2,670	63,970	37,523	1,956
広西チワン族自治区	4,680 0.90	536 0.47	2,262 0.74	1,045 0.58	932 0.88	1,982 0.74	68,950 1.08		1,414 0.72
四川省	5,402 1.03	888 0.79	2,349 0.76	2,065 1.15	1,328 1.26	2,288 0.86	49,692 0.78	15,216 0.41	2,249 1.15
貴州省	4,673 0.89	398 0.35	1,694 0.55	1,516 0.85	671 0.64	3,148 1.18	34,861 0.54	5,554 0.15	1,668 0.85
雲南省	4,078 0.78	393 0.35	1,339 0.44	1,716 0.96	672 0.64		55,508 0.87	16,922 0.45	2,023 1.03

(注) 省・自治区は上段がヘクタール当たりの収穫量、下段が全国を1とする指数。
(出所) 『中国統計年鑑』[2006]。

地下資源についても、石油や天然ガスといったエネルギーを筆頭として、中国自身が自らの成長路線を支えるために必要としている。そのことは、中国が現在の五カ年計画で省資源・省エネルギー型社会の建設を重要な課題と位置づける、近海や海外での資源開発に注力するなどの様子からも容易に見て取れる。石油を例にとれば、中国の石油生産は大慶をはじめとする上位3つほどの油田に集中しているが、どれも産油量のピークをすぎており、現在は海上油田が中国の産油量の増加を支えている。それでも成長テンポの速さに追いつかず、石油の輸入量は拡大傾向にある。

西南地域で埋蔵量が多いとされる鉱物、金属についても、輸入は総じて拡大を続けており（表6）、資源が豊富でも、優先すべきは輸出よりも国内需要の充足というのが中国の実情であろう。資源による輸出拡大は、国の方向性にはなじまない。結局、付加価値の増加を図る技術がなければ、地元の資源は国内の他地域での加工に供されるだけなのではないか。国酒ともいわれる「茅苔酒」は貴州省の特産品だが、原料である高粱（コーリヤン）の生産量は遼寧省の20分の1である（『中国農業年鑑2005』）。西南地域には、豊富な資源への期待はあるが、技術があつてこそ資源の存在も生きてこよう。

表6 中国の金属、鉱物の輸入状況

	HSコード	単位	2000年	2005	05/00
鉄鋼	72	万トン	2,545	3,747	1.5
鋳石	2601	億トン	0.7	2.8	3.9
銅	74	万トン	505	740	1.5
鉛	78	万トン	3	7	2.4
亜鉛	79	万トン	24	77	3.3
アルミニウム	76	万トン	220	300	1.4
鋳石	2606	万トン	40	217	5.4
チタン	8108	トン	2,297	9,179	4.0
鋳石	2614	万トン	4	50	12.6
マンガン	8111	トン	73	414	5.7
鋳石	2602	万トン	120	458	3.8
クロム					
鋳石	2610	万トン	111	302	2.7
バナジウム	811240	トン	41	365	8.8

(注) 銅は2000年のデータがないため2001年の値を記載した。

(出所) World Trade Atlas.

3. 地理上の有利不利

(1) 内陸の不利

1980年代、「自力更生」から「改革開放」に転じた中国で発展をはじめたのは、広東省の珠江デルタであった。対外経済の発展という点で西南地域とは対照的な広東省と西南地域を対比してみよう。

改革開放初期の1978年、設置された4つの経済特区のうち3つ（深圳、珠海、汕頭）が広東省に設置された。広東省への直接投資は、新興工業経済地域（Newly Industrializing Economies : NIEs）の一角を占めていた香港が先鞭をつけ、日系、台湾系、欧米系、韓国系企業などがこれに続いた。広東省の発展の特徴としてあげられるのは、委託加工貿易の広がりである。労働力と工場の敷地、建屋以外は外部から導入する加工組立が発展を牽引した。ワーカーは四川省などから3年ほどのローテーションで無尽蔵ともいえるほどに供給され、その様子は最近まで、「10年以上も人件費が上昇しない」とも形容されてきた。低賃金で視力が良く手先の器用なワーカーの大量動員が可能な中国の生産拠点は、仕様変更への柔軟な対応という点で先進地域の自動化ラインを凌ぐともいわれた。加工組立に無類の強さを発揮した華南地域は、雑貨から繊維製品、家電、パソコンへと生産範囲を広げつつ、世界のサプライチェーンの一翼を担う存在としての地歩を固めていった。

委託加工貿易が広東省で急速に広がった背景としては、第1に、輸出に有利な沿海部に位置したことがあげられる。第2に、珠江デルタにとっては、香港・台湾企業という市場経済のベンチマークが身近な存在であり、経営ノウハウ、ビジネスマインドの導入が容易であった。この点、広西チワン族自治区、雲南省の周辺はASEANの後発国であり、投資やベンチマークとしての役割を期待することは難しい状況である。第3に、中央（北京）から遠い深圳、珠海、汕頭が最初の経済特区に指定されたことからわかるように、市場経済導入の実験地域と位置づけられ、「転廠」をはじめ法制運用上、大きな裁量が黙認されたことなどの点が指摘できる。もともと、隣に位置する広西チワン族自治区は投資受入額、貿易額ともに広東省とは

比較にならないほど小さく、隣り合う2つの自治体でありながら明暗が分かれている。その理由としては、改革開放が中越戦争の勃発と重なり雲南省とともにベトナムと国境を接する広西チワン族自治区は貿易促進に注力できなかったということが考えられる。中越国境地帯の緊張は10年ほど続き、緊張状態が緩和されたのは1987年（石田編 [2005: 312]）、国交正常化は1991年11月であった。政府は翌年、広西チワン族自治区を中国西南地域が海に出る「大通路」と位置づけたが、広東に注がれた外資系企業の視線を広西に向けさせるのは、当時の市場経済の浸透度や産業基盤の整備状況の差を考えた場合、難しかったであろう。

(2) 西南地域の鉄道・道路網

西南地域は基本的に内陸地であり、港湾といえば短い海岸線を有する広西チワン族自治区に北海港、欽州港、防城港などいくつかあるだけである。したがって西南地域が外国との貿易を発展させるには、広西チワン族自治区や雲南省といった出口への鉄道・道路網の整備が必要条件といえる。実際、中越国交正常化の翌年である1992年、中国共産党中央委員会と國務院は「広西に西南地区の海に出る通路としての役割を十分に果たさせる」という政策を打ち出した（中国研究所編 [2006: 426]）。

その後の広西チワン族自治区における交通網整備の状況をみると、鉄道（国有）は1991年から2004年にかけて1666キロメートルから2738キロメートルに、自動車道路は3万6660キロメートルから5万9704キロメートルに伸びている。雲南省、貴州省においても鉄道、道路網が着実に整備されている。とくに雲南省の自動車道路は、1991年の5万8123キロメートルに対し2004年には16万7050キロメートルと3倍近くにまで伸びた。

しかし鉄道の営業キロ数、自動車道路の単純な長さが西南地域の鉄道網、道路網の発展レベルを示すものではない。省・自治区の面積にはばらつきがあり、広いほど鉄道、道路は長くなると考えるのが自然である。高低差のある昆貴高原の地形はその傾向に拍車をかける。

そこで各省・自治区の面積の影響を除くため、鉄道・道路の整備状況を1万平方キロメートル当たりのキロ数で比較すると、各欄の下段のとおり

となる。西南3省は、鉄道、道路とも華東地域、広東省よりも短いことに加え、道路の質も低い。通行量の大きな「高速」については、西南地域の場合華東や華南に比べ単位面積当たりのキロ数が1桁少なく、「一級」ともなれば、貴州省、雲南省の場合2桁少なくなる。道路の等級と1日当たりの車両の通行量の関係はおおよそ、「高速」が2万台～、「一級」が1万～2万5000台、「二級」が4500～7000台、「三級」が2000台まで、「四級」が200台までと考えられ、「高速」と「四級」では通行量に100倍以上の開きがあっても不思議ではないことになる（日通総合研究所編[2004:33]）。道路の場合、単位面積当たりの「高速」、「一級」道路のキロ数が増えなければ、輸送能力の改善は限定的であるものと思われる（表7）。

西南地域の場合、省・自治区の貿易額に比べ、税関の貿易額が概して小さい。上海市や広東省など、税関区分が複数ある省・自治区もあるが、西南地域の広西チワン族自治区、雲南省、貴州省、四川省の税関区分はどれもひとつである。

2000年以降の輸出入の推移をみると、省・自治区も税関も似たような動きをしているが、総じていえば省の貿易額（輸出は生産者が、輸入は消費者が省・自治区内に所在するもの）が税関の貿易額を上回っている。2005年データでいえば、貴州省の場合、貴陽税関経由の輸出額は、省の輸出額の10%にすぎない。雲南省の場合、昆明税関経由の貿易額は、輸出が56%、輸入が42%である。広西チワン族自治区の場合は様相が異なる。南寧税関経由の輸出は自治区の輸出の79%であり貴州省や雲南省に比べれば乖離が小さいことに加え、輸入は税関経由の金額が自治区の金額を上回っている。これらの乖離の理由としては、通関が地元ではなく港や国境の近くで行われるためといったことが考えられる。貴州省や雲南省は全くの内陸地だが、雲南省は国境地帯にある。また、港のある広西チワン族自治区の場合、周辺地域、とくに貴州省や雲南省の貿易の通り道となっているので、輸入についてはその傾向が示されたと理解できる。しかし香港に加え広東省にも有力な港が多く、広西チワン族自治区のメーカーであっても、輸出にはそれらの港湾を利用するケースが少なくない。輸出については、そうした事情を反映したものであろう（表8、表9）。ちなみに近年、

表7 鉄道・道路網の比較 (2005年)

	鉄道 (営業キロ数)	道路 (キロ数)	等級あり					等級外	面積 (万平方キロメートル)
			高速	一級	二級	三、四級			
						三級	四級		
全国	75,438	1,930,543	41,005	38,381	246,442	1,265,963	338,752	960.00	
上海	79	2,011	43	40	257	1,319	353		
	269	8,110	560	302	2,306	4,942	-	0.62	
江蘇	434	13,081	903	487	3,719	7,971	-		
	1,616	82,739	2,886	4,214	13,998	53,860	7,781	10.26	
	157	8,064	281	411	1,364	5,250	758		
浙江	1,292	48,600	1,866	2,955	6,569	34,777	2,432	10.18	
	127	4,774	183	290	645	3,416	239		
広東	2,225	115,337	3,140	7,301	17,147	78,888	8,861	17.81	
	125	6,476	176	410	963	4,429	498		
四川	2,960	114,694	1,758	1,599	10,123	65,857	35,356	48.46	
	61	2,367	36	33	209	1,359	730		
広西	2,729	62,003	1,411	546	6,299	42,790	10,957	28.00	
	97	2,214	50	20	225	1,528	391		
貴州	1,986	46,893	577	92	2,629	32,149	11,447	17.64	
	113	2,658	33	5	149	1,823	649		
雲南	2,328	167,638	1,421	248	3,325	106,926	55,718	39.40	
	59	4,255	36	6	84	2,714	1,414		

(注) 鉄道営業キロ数、道路キロ数の上段は省・自治区・市の総キロ数、下段は1万平方キロメートル当たりのキロ数。
(出所) 「中国統計年鑑」[2006]。

表8 省の貿易額と税関の貿易額

(100万ドル)

輸出	広西チワン族自治区		雲南省		貴州省		四川省					
	①生産者	②南寧税関	②/①	①生産者	②昆明税関	②/①	①生産者	②貴陽税関	②/①	①生産者	②成都税関	②/①
2000	1,643	1,072	65%	1,093	543	50%	490	51	10%	1,434	402	28%
2001	1,352	1,163	86%	1,148	612	53%	513	43	8%	1,685	345	20%
2002	1,477	1,131	77%	1,294	730	56%	566	52	9%	2,631	790	30%
2003	1,778	1,374	77%	1,470	912	62%	812	94	12%	3,034	766	25%
2004	2,314	1,815	78%	2,023	1,171	58%	1,278	168	13%	3,483	596	17%
2005	2,871	2,264	79%	2,386	1,342	56%	1,129	118	10%	4,091	522	13%

輸入	広西チワン族自治区		雲南省		貴州省		四川省					
	①消費者	②南寧税関	②/①	①消費者	②昆明税関	②/①	①消費者	②貴陽税関	②/①	①消費者	②成都税関	②/①
2000	644	871	135%	791	350	44%	375	110	29%	1,344	835	62%
2001	731	851	116%	1,004	515	51%	354	105	30%	1,676	1,137	68%
2002	1,130	1,246	110%	1,032	513	50%	415	154	37%	1,832	1,216	66%
2003	1,445	1,727	119%	1,250	453	36%	744	260	35%	2,753	1,726	63%
2004	2,517	2,810	112%	1,717	588	34%	1,102	301	27%	3,201	1,797	56%
2005	2,891	3,242	112%	2,606	1,089	42%	901	210	23%	3,588	1,929	54%

(出所) 「中国統計年鑑」, World Trade Atlas (原典は「中国海関統計」)。

表9 広西チワン族自治区と広東省のおもな港のバース数

	港湾名	年	バース数	うち1万トン級以上
広西チワン族自治区	北海	2001	9	4
		2005	22	4
	防城	2001	22	11
		2005	24	13
広東省	湛江	2001	31	24
		2005	71	29
	深圳	2001	100	33
		2005	121	52
	広州	2001	90	32
		2005	455	49

(出所) 『中国交通年鑑』[2002], [2006]。

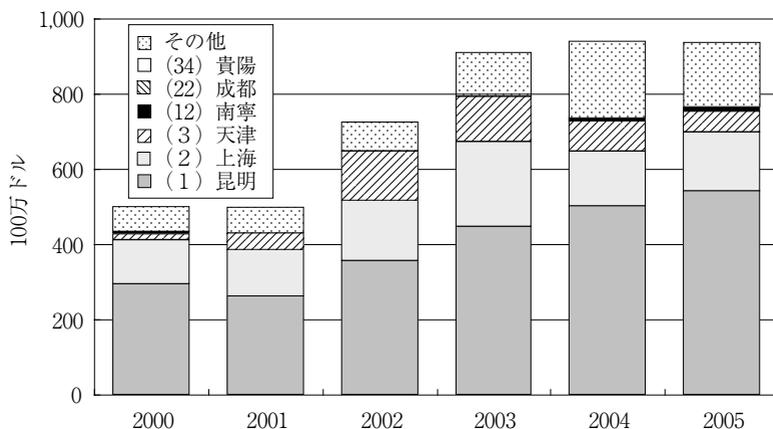
広東省の港湾整備のピッチは驚くべきもので、2001年から2005年にかけてのバース数の推移は、広西チワン族自治区に最も近い湛江港だけでも31から71に、うち1万トン級以上の船舶が停泊できるものは24から29に増えた。広州港の拡張ピッチはさらに驚異的である。上図のとおり、広西チワン族自治区（北海港、防城港）との差は開くばかりの観がある。

(3) 国境貿易の視点

港が少なく交通インフラも整備されているとは言い難い西南地域が、貿易において存在感を示している分野がある。それは隣接するASEAN諸国との貿易である。西南地域は広西チワン族自治区がベトナムと、雲南省がベトナム、ラオス、ミャンマーとの国境地帯にある。

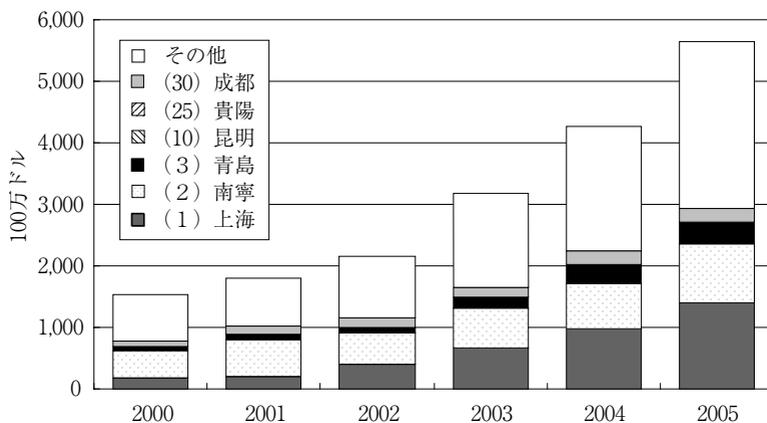
税関別の統計にもとづき、2005年の対ASEAN輸出の動きを例にとってみると、ミャンマーとベトナム向けでシェアが大きい。ミャンマー向けについては、全体9億3500万ドルのうち、5億4100万ドルが昆明（雲南）で58%を占め、上海、天津といった沿海部の主要港をおさえ41の税関区第1位となっている。そのほか、南寧が700億ドルで第12位につけた(図3)。ベトナム向けは、全体56億3900万ドルのうち南寧（広西）が9億5500万ドルで17%を占め、上海に次ぐ2位。そのほか、昆明も2億800万ドルで4%を占め第10位である(図4)。なお、タイ向けについては全

図3 税関別の輸出額の推移（対ミャンマー）



(注) 凡例のカッコ内の数値は税関別輸出額の順位。
 (出所) World Trade Atlas (原典は『中国海関統計』)。

図4 税関別の輸出額の推移（対ベトナム）



(注) 凡例のカッコ内の数値は税関別輸出額の順位。
 (出所) World Trade Atlas (原典は『中国海関統計』)。

体 78 億 1800 万ドルのうち昆明が 9600 万ドルで第 13 位、南寧が 6000 万ドルで第 15 位となっている。

中国全体の貿易においては目立たぬ西南地域が、ミャンマーやベトナムとの貿易では一定の地位を確保している。地理的に近いため自明の結果ともいえるが、中国と ASEAN の FTA の締結決定後、ASEAN との国境地帯に位置する雲南省、広西チワン族自治区と ASEAN の貿易拡大への期待は高まっている。

第3節 沿海部とは異なる西南地域の対外発展の要因

外資の受入額と、輸出額や一人当たり GDP の相関をみると、経済発展に関し外資導入への期待が高まるのは道理だが、沿海部に市場経済への対応と産業集積が進んだ都市が多数出現した今日、発展の遅れた地域が、沿海部と伍して外資を引き寄せることは容易ではないはずだ。西南地域の場合、急峻な内陸地が大宗を占め、地理的にも不利である。ましてや 2003 年の SARS 発生、2004 年の沿海部における電力不足の深刻化、2005 年の反日デモの発生など、経営資源の中国一極集中がリスクであることを再認識させる出来事が相次いだ。しかし、2000 年代に入り中央政府が打ち出した施策や国内情勢の変化には、西南地域の対外発展の追い風として期待できるものもある。ここで3点指摘したい。

1. 中国と ASEAN の FTA

第1に、欧米に遅れはしたものの、アジアにも FTA の時代が到来した。中国は最初の FTA の相手として ASEAN を選んだ。2000 年 11 月の ASEAN との首脳会議に出席した朱鎔基総理は、ASEAN に対し FTA 締結を提案し、翌 2001 年 11 月の首脳会議で、10 年以内の FTA 締結に合意した⁽⁴⁾。さらに 2002 年 11 月には「包括的経済協力のための枠組み協定」を締結し、アーリーハーベスト措置として HS コード 1～8 類の農水産品関税の先行的な引き下げも決定した。

最初の FTA の相手として ASEAN を選んだ理由として中国側が指摘す

るのは、①中国と ASEAN の FTA による将来の貿易投資の拡大と相互補完性強化による経済発展、②文化、言語、歴史の共有・共通性、③善隣外交の展開、などの点である（濱田 [2004:92-103]）。また、WTO 加盟で国内市場を開放すると同時に、自らも輸出市場を開拓することが重要課題となり、ASEAN や中東諸国の市場が、中国で育成途上にある自国ブランドの試金石と考えられたのであろう。さらに、中国南部の出口に位置する ASEAN との友好関係は、安全保障の観点からも中国にプラスと考えられる。途上国同士ということもあり、授權条項にもとづく例外措置の多い FTA との批判はあるが、できる課題をとらえ協働の進捗を目にみえる形で示していく中国の取り組みは、周辺諸国にインパクトを与えた。

2. 汎珠江デルタ構想

第2に、広東省や香港が西南地域を巻き込み、地域経済圏構想「汎珠江デルタ構想」をスタートさせている。この構想は「9+2」と呼ばれるが、それは中国の9つの省・自治区（福建省、広東省、海南省、江西省、湖南省、四川省、広西チワン族自治区、雲南省、貴州省）と2つの特別行政区（香港、マカオ）の集合体であることに由来する。この9つの省・自治区は、GDPでは全国の31%、人口では35%を占める。9つの省・自治区のなかでは、広東省がGDPで38%、輸出入額では8割超を占め、同省が構想の中心であることは明白である（表10）。

実際、2003年7月に汎珠江デルタ開発戦略を提唱したのは広東省の張徳江書記である。2004年6月の汎珠江デルタ地域協力フォーラムで汎珠江デルタ地域協力枠組み協定が締結され、この構想の対象地域は以下の3つの基本原則に合意した。第1に、補完性（汎珠江デルタ地域が地理的に広大であり、また各省および特別行政区のリソースや競争優位性に大きな較差があることに配慮し、各省・特別行政区は開発プロセスにおいて相互補完的でなければならない）、第2にオープンかつ公正であること（協力は、地域間貿易の促進とともに、地域保護主義や差別的貿易慣行の撤廃をめざさなければならない）、第3に市場志向であること（政府の役割は、経済

表 10 中国本土の汎珠江デルタ構想対象地域

	GDP 億元	人口 万人	輸出額 億ドル	輸入額 億ドル
福建省	6,560	3,535	348	196
広東省	21,701	9,194	2,382	1,898
海南省	904	828	10	15
江西省	4,056	4,311	24	16
湖南省	6,474	6,326	38	23
四川省	7,385	8,212	47	32
広西チワン族自治区	4,063	4,660	29	23
貴州省	1,942	3,730	9	5
雲南省	3,472	4,450	26	21
9地区合計	56,558	45,246	2,913	2,229
全国	182,321	130,756	7,620	6,600

(出所) 汎珠三角合作信息网「9省区04和05年産総値発展状況」(2006年9月6日)、中国国家统计局編「中国統計摘要2006」。

開発に資する事業環境を作り出すことで市場が機能し、リソースが最適に配分されるようにする)である(香港貿易発展局[2005:3])。

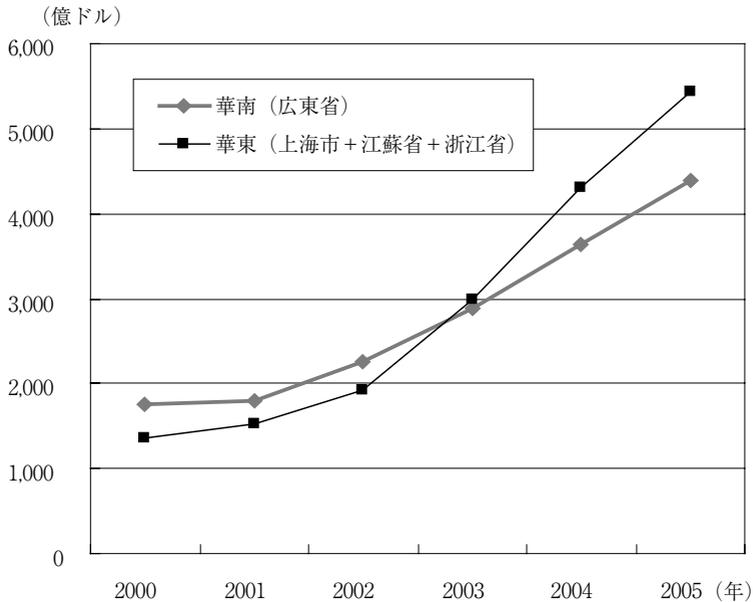
広東省を中心とする華南地域は、改革開放初期に経済特区が設置されて以来、対外開放のフロントランナーであったが、1990年代に上海市浦東の開発が始まり、2000年代に入ると華東地域(上海市、江蘇省、浙江省)の貿易額が広東省を上回るようになった。(図5)。投資額でも江蘇省単独で広東省を上回っている。華東地域の発展が上海市から江蘇省、浙江省へ広がりをみせるのに対し、華南は広東省の珠江デルタと他の地域が連携して発展しているとはいえ、発展地域をいかに珠江デルタの両翼(東西)に拡張するかが課題とされている。国際的な自由貿易港である香港も、2005年にコンテナ取扱量でシンガポールに世界一の座を奪われた。深圳や上海の追い上げも急であり危機感を強めている。

汎珠江デルタ構想はそうした状況の下で発表された。広東省や香港は、西に広がる本土の省・自治区を後背地とすることで、中長期的なさらなる発展をめざしている。発展の遅れた西南地域を、発展地域である広東省や香港が巻き込むこの構想は、地域間の調和のとれた発展をめざす中央政府の方針にも合致する。

香港は、この構想の対象地域のなかで最も発展した地域であり、国際的

な自由貿易港と資本市場を有するゲートウェイ、金融、法律、会計をはじめとするビジネスサービス供給の拠点、華人の国際的ネットワークなど、さまざまな機能を兼ね備えている。香港の西南地域への投資を、構想がスタートした2004年の前後で比べてみると、四川省や広西チワン族自治区については投資額の増加が見て取れる（表11）。

図5 華東と華南の輸出額



(出所) 『中国統計年鑑』。

表11 香港の西南地域への投資件数・金額の推移

(金額：万ドル)

	2000		2001		2002		2003		2004		2005	
	件数	金額										
広西チワン族自治区	134	23,854	152	31,133	136	43,000	166	20,945	171	54,707	156	60,791
四川省	110	8,863	137	22,682	91	26,221	126	20,244	125	48,453	NA	NA
四川省成都市	65	10,660	74	15,064	64	16,425	73	38,859	66	61,228	76	149,029
貴州省	NA	2,740	NA	2,727	NA	2,259	NA	1,460	NA	1,700	NA	1,644
雲南省	41	16,963	46	9,027	44	6,486	60	18,089	42	12,911	46	16,243

(出所) 『中国対外経済貿易年鑑』, 『中国商務年鑑』。

3. 和諧社会をめざす中国

第3に、胡錦濤政権は、地域間の調和をめざす方針を明確に打ち出している。2006年3月の全人代で可決された第11次五カ年規画が最重要課題としたのは、和諧社会すなわち調和のとれた社会の実現である。成長の質、発展のバランスを重視し、地域間格差の是正に向け、生産要素の自由な移動の促進や産業の移転が進められる（表12）。発展地域には自主技術の開発や環境に配慮した産業立地を志向し、沿海部の発展の基礎を築いた労働集約型の産業については、内陸への移転が政府によって誘導されることなどが示唆される。

2006年9月には増値税還付率の引き下げが実施された。対象となった

表12 第11次五カ年計画（抜粋）

第五編 地域間の調和のとれた発展の促進
資源と環境面の負担力、発展の基礎と潜在力にもとづき、比較優位の發揮、弱い部門の強化、公平な基本的公共サービスの享受という基準に従って中心的機能の位置づけが明確になり、東部、中部、西部が相互にうまく機能し、公共サービスと人民の生活水準の格差が縮小に向かうような地域間の調和のとれた発展の構造を徐々に作り上げる。
第十九章 地域発展戦略の実施
西部大開発を推進し、東北地区など旧工業地帯の振興、中部地区の台頭、東部地区の全国に先駆けた発展を奨励すると地域発展戦略を堅持し、地域間の調和のとれた相互作用のしくみを整え、合理的な地域発展構造を形成する。
第一節 西部大開発の推進（略）
第二節 東北地区など旧工業地帯の振興（略）
第三節 中部地区台頭の促進（略）
第四節 東部地区の全国に先駆けた発展の奨励（略）
第五節 旧革命根拠地、少数民族地区および辺境地区の発展支援（略）
第六節 地域間の調整・相互作用のしくみの整備
市場のしくみを整え、行政区画の壁を取り払い、生産要素の自由な移動を促し、産業の移転を誘導する。協力のしくみを整え、各地区によるさまざまな形の経済的協働や技術、人材協力を奨励支援し、東部が西部をとめない、東中西部が共に発展する枠組みを作り上げる。相互援助のしくみを整え、発展地域が対口（一対一の）支援や寄付などの方法で発展の遅れた地域への助力を促す。助成のしくみを整え、公共サービス平等化の原則に従い、発展の遅れた地域に対する国の支援を強める。国は引き続き経済政策、資金投入や産業発展の面で、中西部地域への支援を強める。

（出所）「中華人民共和國国民経済和社会發展第十一个五年規劃綱要（草案）」。

財をみると、繊維品、家具、プラスチック、ライターなど労働集約型品目が多数含まれている。近年、沿海部に集積する外資企業の間で、最低賃金の相次ぐ引き上げ、労働需給タイト化への関心が高まっている。労働集約型製品に対する増値税引き下げ幅は2ポイントと小幅な点は労働集約型産業への配慮ともみられる（通商弘報 [2006]）。しかし製造コスト削減努力が求められることに変わりはない。ここ数年とりざたされてきた内外企業所得税率の統一、二免三減などの外資優遇の廃止も2007年の全人代で改正される模様であり、中国内の外資企業を取り巻く環境も、内資との平等へと変化しつつあることが見て取れる。

もっとも、2003年のSARS発生あたりから、経営資源の中国集中を再考する機運も生じている。中国以外にも事業を展開することで集中にともなうリスクのヘッジを図るチャイナ・プラス・ワン志向が企業に浸透しつつある。その点でベトナムやタイは注目されており、投資が沿海部から内陸ではなく、そうした中国外の地域に向かうことも十分考えられる。

おわりに

改革開放以来の中国の貿易、外資誘致の拡大は、沿海部の輸出基地設置が基礎になっている。地域としては華南から華東、環渤海へ広がり、外資系企業の活動は輸出から国内販売へ軸足を移しながら今日に至っている。西南地域はそうした外資導入の流れに取り残された地域のひとつである。急峻な内陸地であり、輸出基地として海外から注目されることは難しい。外資に注目され発展した沿海部とは異なり、対ASEAN貿易拡大、地域格差是正といった中央政府の方針の変化を背景とした発展になるのであろう。

貿易や外資誘致について西南地域で希望を見出すとすれば、短いながらも海岸線を有する広西チワン族自治区と、ASEAN諸国との国境地帯である雲南省になるだろう。1979年に中越戦争が始まり、ベトナムとの国交が正常化したのは1991年のことであり、ベトナムとの国境地帯である広

西および雲南は、長らく外資を誘致する状況ではなかったが、現在、中国のASEANに対する姿勢は友好的なものに大きく転換した。

西南地域の貿易を拡大させるには、第1に内陸部から西南地域の出口である広西あるいは雲南への交通網を整えることが必要だろう。鉄道や道路の建設は盛んに行われているが、通行量の拡大には高速道路や一級道路といった質の高い道路の整備がなおも課題である。第2に、輸出増加には農産物や豊富な地下資源の利用が考えられる。第3に、外国や発展地域からの企業誘致が、経営ノウハウ、産業技術移転の点で重要といえるだろう。広東省の一寒村にすぎなかった深圳市が一大工業都市へと変貌を遂げたのも海外からの経営ノウハウや技術移転によるものだからである。

ただし西南地域が、資源で輸出を拡大できるかといえば、懸念される点もある。中国は世界で最も資源を必要としている国のひとつであり、国内需要を満たすことが優先課題になるものと思われる。外資誘致については、相対的に産業集積が進み投資環境の改善された沿海部との格差を、現状程度に維持することすら容易ではないだろう。

そうした問題への対処法として、まず考えられるのは西南地域の資源開発、西南地域の市場開拓、沿海部のコスト上昇など、さまざまなチャンスを生かし、発展した沿海部から企業を誘致することである。その際、政府や汎珠江デルタ構想を牽引する香港や広東省には、西南地域の潜在力を引き出す場を提供する、自らが投資家となるなどの役割が期待される。内外の企業家、投資家、技術、沿海部や海外のニーズと西南地域を結び付けることが求められる。こうした活動は、西南地域の貿易や投資の拡大に直結するものではないかもしれないが、西南地域の産業のレベルを引き上げることになるだろう。また輸出や投資受入の拡大は、そうした域内の工業レベルの向上の延長線上にあるはずである。

そのほか、ASEAN向け輸出の特別区域のようなものを西南地域に設置するのもひとつの方法だろう。ASEANのなかでも西南地域が国境を接するミャンマー、ラオス、ベトナムといった国に、西南地域の資源を利用した製品を輸出する場合、西南地域で加工を行い輸出することを義務づけるといったものである。自由な貿易の制限につながる恐れもあるが、発展の

遅れた地域に対外貿易における指定席を確保するとともに、技術移転を進めることにも資すると思われる。均衡発展の観点からも検討の余地があるのではないだろうか。

〔注〕

- (1) 2004年6月に香港で開催された汎珠江デルタ地域協力フォーラムのテーマ。
- (2) 2006年8月25日に行われた三菱UFJ証券（香港）でのヒアリング。
- (3) 煙草の葉、茶葉、きのこのデータは『中国農業年鑑 2005』。
- (4) 「包括的経済協力のための枠組み協定」で、ASEAN 原加盟国 6カ国については2010年までに、新規加盟 4カ国については2015年までに自由化を完了することとなった。

〔参考文献リスト〕

〈日本語文献〉

- 石田正美編 [2005] 『メコン地域開発—残された東アジアのフロンティア—』 日本貿易振興機構アジア経済研究所。
- (株) 日通総合研究所編著 [2004] 『必携中国物流の基礎知識—ロジスティクスの実践に向けて』 大成出版社。
- (社) 中国研究所 [2006] 『中国年鑑 2006年版』 創土社。
- 日本貿易振興機構（香港）[2006] 「広西チワン族自治区の投資環境調査報告」。
- 濱田太郎 [2004] 「中国の FTA 政策」（日本機械輸出組合『東アジア自由貿易地域の在り方—東アジア自由ビジネス圏の確立に向けて』）pp.92-103。
- 香港貿易發展局 [2005] 「汎珠江デルタ（Pan -PRD）：多様な単一市場—拡大する香港の後背地」。
- 「輸出増値税の還付率引き下げ—輸出抑制策を強化—」（『通商弘報』2006年9月19日）。

〈中国語文献〉

- 国家統計局各年版『中国統計年鑑』 北京：中国統計出版社。
- 『中国統計摘要』 北京：中国統計出版社。
- 海関総署 各年版『中国海関統計』 北京：中国海関雜誌社。
- 広西壮族自治区統計局各年版『広西統計年鑑』 北京：中国統計出版社。
- 貴州省統計局各年版『貴州統計年鑑』 北京：中国統計出版社。
- 雲南省統計局各年版『雲南統計年鑑』 北京：中国統計出版社。
- 四川省統計局各年版『四川統計年鑑』 北京：中国統計出版社。
- 商務部各年版『中国商務年鑑』 北京：中国商務出版社。
- 商務部『中国対外経済貿易年鑑』 北京：中国対外経済貿易出版社。
- 農業部各年版『中国農業年鑑』 北京：中国農業出版社。
- 国家發展和改革委員会各年版『中国交通年鑑』 北京：中国交通年鑑社。
- 中華人民共和國国民經濟和社会發展第十一個五年規畫綱要（草案）。

コラム：マオタイ

中国の酒といえば紹興酒を思い浮かべる方が多いと思う。しかし、中国で「国酒」とされるのは貴州特産のマオタイである。正確には貴州茅台酒という。この無色透明のコーリヤンの蒸留酒は、アルコールそのもののようだ。度数は53度、少量でも喉が焼ける。香りも強い。

ミニチュアのワイングラスのような杯で酌み交わすこの酒が、貴陽の宴席でふるまわれた。歓待だと思っただが、何分強い酒なのですまない。すると貴陽の人に「マオタイは他の酒とは違う。二日酔いすることのない素晴らしい酒だ。胃腸にも良いからもっとどうぞ」と勧められた。確かに、勧めた本人は全く問題がなかった。

今や中国でも、度数の高い酒類は好まれているとはいえないと聞く。とくに若い世代はそうだという。とはいえ、毛沢東主席がニクソン大統領をもてなし、周恩来総理が田中角栄首相をもてなした酒である。貴州省科学技術庁と茅台集団は2006年3月、「貴州茅台科学技術連合基金」を設立した。この酒の持続的発展をめざすという。

